

2024. 10. 3

アテンション・エコノミー、リテラシー向上が不可欠

～情報との距離感と自分の意志で使いこなす姿勢が重要～



経済調査部 エコノミスト
藤田 敬史

ポイント

- ・ アテンション・エコノミーとは、インターネットやスマートフォンの普及により膨大な情報が溢れる現代においては、人々の注目や関心が希少資源となり経済的価値や重要性を持つという概念
- ・ 現在のライフスタイルから SNS や動画配信サービス等を完全に切り離すのはほぼ不可能。情報に振り回されず適切な距離を保つためには、情報提供の仕組みを知るなどリテラシー向上が欠かせない
- ・ 膨大な情報があふれる現代において、適切な距離感を意識し、プラットフォームやテクノロジーを自分の意志で安全に使いこなせる社会の実現が望まれる

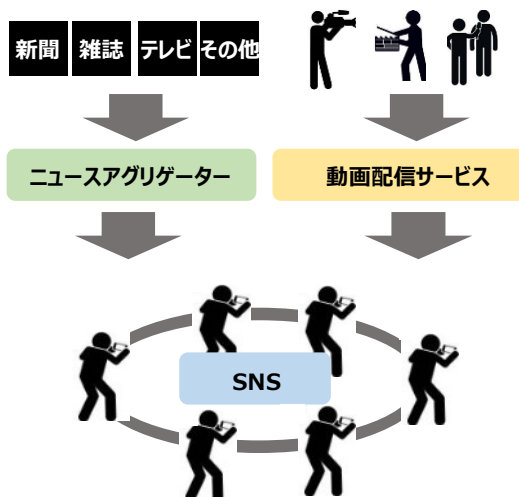
1. アテンション・エコノミーの特徴と仕組み

アテンション・エコノミーとは、人々の注目や関心が経済的価値や重要性を持つという概念である。経済学では、希少性は価値を生み出す源泉のひとつとされている。インターネットやスマートフォンの普及により膨大な情報が溢れる現代では、人々の注目や関心が希少資源となる。企業や個人がこれを獲得し、それを収益化するのがアテンション・エコノミーの本質と言える。

政治の世界でも近年、アテンション・エコノミーの影響が顕著である。9月に行われた自民党総裁選では、各候補が SNS や動画配信サービスを駆使した選挙活動を展開、演説会や討論会と並ぶ主戦場となった。7月に行われた東京都知事選では、SNS や動画配信サービスを活用した候補者が得票数を伸ばしたことも記憶に新しい。

FaceBook や X、Instagram などの SNS や Youtube や TikTok などの動画配信サービス、Yahoo!ニュースや SmartNews などのニュースアグリゲーターなど多くのオンラインサービスは基本的に無料で提供される(図表1)。それらを運営するプラットフォームの収入の大部分は広告収入であり、人々がそのサービスをどのくらい利用するかによって左右される。プラットフォームは、利用者の好みに応じて最適化した情報を提供する。例えば、YouTube のホーム画面には、利用者の関心に基づいた動画が次々と表示される。これはアルゴリズムを活用したもので、視聴履歴やフォローしているア

(図表1) 各種オンラインサービス



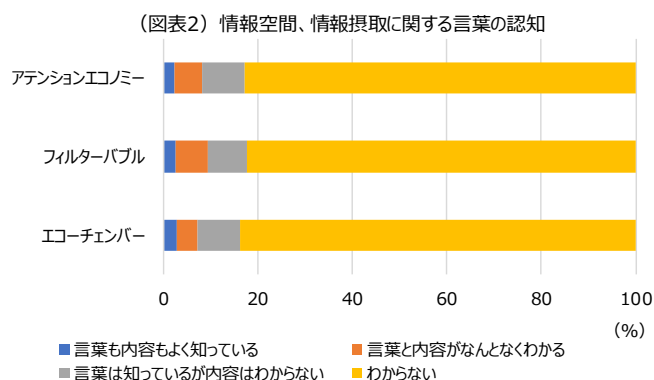
(出所) 明治安田総研作成

カウントなどのデータを基に計算され、膨大な情報のなかから利用者が興味を示すような情報を選び出す。利用者が長時間プラットフォームに滞在すれば、さらに広告の露出が増え、収益が増えるため、プラットフォームは人々の注目や関心を売上げにつながる貴重な資源と捉え、アテンションを惹きつけるコンテンツの拡充やユーザビリティの向上等を重視したオンラインサービスの設計を行なっている。また、情報を発信するサイドの利用者で、特に影響力の大きい人物は「インフルエンサー」と呼ばれる。若者を中心に絶大な人気を誇る世界的歌手テイラー・スウィフトさんなどは代表格である。一方、PV（ページビュー）数やインプレッション数稼ぎを目的に閲覧者のアテンションを獲得しようとする質の低い発信者が多数存在しているのも現実である。

2. 社会にもたらす弊害、情報リテラシー浸透道半ば

情報の質よりも人々の注目や関心を集めることに価値を見出すアテンション・エコノミーは、社会にどのような影響を与えているのだろうか。

アテンション・エコノミーでは、どれだけ人目をひくかが重視され、情報の質は玉石混交である。動画配信サービスでは、利用者が好むであろうコンテンツが自動的に選択されるなど、一見便利のように見えるが、危険な側面もある。アルゴリズムにより選別された情報だけが利用者に届くフィルターバブル¹となり、知らないうちに自分好みの意見を多く目にするようになる。そして、SNS 等で自分と意見が近いグループを探してそうした人たちと交流をエコーチェンバー²のなかで深めていく。それは人間に元々備わっている確認バイアス³を強め、偏りを強めていくことにもなりかねない。社会は人それぞれ意見が異なることは当然なことであるにもかかわらず、偏りが強くなり過ぎると、社会的分断を生じさせる危険性もはらむ。自身が入手する情報が持つ性質を知ることが重要であるが、アテンション・エコノミー、情報の偏りを生じさせるフィルターバブル、エコーチェンバーの認知率はどれも 20%以下と低く（図表 2）、情報がパーソナライズされていることの認識が薄いまま接している利用者が多いのが現状と言える。



そのほかにも、アテンション・エコノミーがもたらす弊害として、近年関心が高まっている事象のひとつが、特に若い世代の SNS 等への依存症や、それによるメンタル不調の問題である。明治安田生命が 2024 年 9 月に公表した「[健康に関するアンケート](#)」では、健康に不安を感じている人のうち、約 4 割が「ストレスが溜まっている」と回答、ストレスと SNS の関係では 20~30 代の約 7 人に 1 人が「SNS に関すること」をストレスに感じており、40 代以上の世代と比べ突出している。また、10 代は、衝動性をコントロールする前頭前野の成熟に対し、欲求や感情を司る大脳辺縁系の成熟が先行するなど精神的に不安定な時期で、SNS 等の長時間利用など、大人よりもめり込みやすいと言われる。筆者にも中学生と小学生の子供がいるが、デジタルネイティブ世代にとって動画配信サービス等は魅力的なようで、その中毒性たるやすさまじいものだと肌で感じる。

2019 年度に GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想がスタート、全国の小・中学生の一人ひとりにタブレット等情報端末が提供され、コロナ禍におけるリモート授業の拡大などもあって活用が加速した。一方で、子どもたちの使い方や情報リテラシー教育においてもさまざまな課題が浮き彫りとなった。株式会社ラックの調査によれば、インターネットトラブルの種類は多様で、37 種類（図表 3）にのぼる。同社の ICT

¹ 自分と似たような価値観や考え方のユーザーをフォローすることで、同じようなニュースや情報ばかりが流通する閉じた情報環境のこと
² ユーザーの好みを学習したアルゴリズムによって、そのユーザーが好みそうな情報ばかりがやってくるような環境
³ 自身の先入観や意見を肯定するため、それを支持する情報のみを集め、反証する情報は無視または排除する心理作用

利用環境啓発支援室が実施している情報リテラシー啓発講座において、対象の小中学校に37種類のなかからどのテーマを希望するか聞いたランキングでは、1位「ネット依存」、2位「ネットいじめ・ハラスメント」、3位「健康被害」となっている。

3. 情報との適切な距離感を意識し、自分の意志で使いこなす

弊害も懸念されるアテンション・エコノミーだが、現代社会の経済活動として大きな実績を上げていることも事実である。いまのライフスタイルから SNS や動画配信サービス等を完全に切り離すのはほとんど不可能である。

膨大な情報が溢れる時代において、人間はバランスよく必要な情報を取捨選択できるように訓練されているわけではない。アテンション・エコノミーの問題は、消費者がそうした非対称な状況におかれているなかで、経済的な利益のために人々に情報を消費させようとする点にある。

情報が溢れている状態は、食が溢れている状態に似ている（図表4）。食べ物は身体をつくり、情報は思考をつくる。「食」に対するリテラシーは2005年に食育基本法が施行され、栄養バランスの偏り、不規則な食事などの食の乱れが、肥満や生活習慣病の増加などの問題を生じさせることを知る契機となった。「情報」についても「見たいから見る」ではなく、「その情報がどういう情報なのか知ったうえで見る」という認識を浸透させるなど、情報リテラシーの向上が必要であると考えられる。

GIGA スクール構想から5年が経過し、課題点も出てきているなか、利用者の意識改革や教育、政府の適切な支援によって、利用者自ら取得する情報を自律的に選択できるようになること、そういった環境を整えていくことが必要と考える。食により左右される身体の健康については健康診断を実施するように、まずは若年世代向けに、義務教育課程で情報健康診断を実施するなど、行動変容を促す対策が必要と考える。

膨大かつ玉成混交な情報があふれる現代において、情報への向き合い方を誤れば大きなリスクに直面する。情報提供の仕組みを理解し、あえて自分と反対の意見にも触れてみるなど、正しく情報と向き合っていく姿勢が大切である。情報との適切な距離感を意識し、老若男女問わず、プラットフォームやテクノロジーを自分の意志で安全に使いこなせる社会の実現が望まれる。

（図表3）インターネットトラブルの種類

【情報モラル】	【情報セキュリティ】
1 テマ・フェイクニュースを発信すること	23 偽警告
2 炎上させること	24 不正アクセス
3 ネット依存	25 フィッシング
4 健康被害	26 ウイルス（マルウェア）作成・提供・保管
5 誹謗中傷	27 ウイルス（マルウェア）感染
6 不適切投稿	28 情報漏えい（機密情報・個人情報等）
7 ネットいじめ・ハラスメント	29 OSやアプリの未更新
8 犯罪予告	30 不十分なID/パスワードの取り扱い
9 著作権侵害	31 機器の紛失・破損
10 肖像権侵害	
11 プライバシー権侵害	【消費者トラブル】
12 ネット選挙運動違反	32 迷惑メール
13 出会い系サイトに起因する犯罪被害	33 有害広告
14 SNS等に起因する犯罪被害	34 架空請求・不正請求
15 リベンジポルノ	35 高額課金
16 児童ポルノの製造、所持、頒布	36 情報商材
17 違法・有害コンテンツ	オンライン売買仲介サービスのトラブル
18 チート行為	37 （インターネット・オークション、フリマにのけるトラブル）
19 不必要な位置情報の付与	
20 SNS公開範囲設定の誤り	
フィルタリングやペアレンタルコントロール	
21 （OS機能制限等）の未利用	
ながらスマホ（歩きスマホ・運転中のながらスマホ等）	
22	

（出所）株式会社ラック「情報リテラシー啓発のための羅針盤（本編）」

（図表4）飽食と情報爆発

飽食	情報爆発
様々な食べ物が溢れている	様々な情報が溢れている
食べたい物だけ食べていると不健康に	欲しい情報だけみていると偏った思考に
健康のためには、必要な栄養を取ることが重要	様々な情報を元に適切に意思決定出来ることが重要
健康的のためには、食に関する知識や情報が必要	情報を選択し自分で判断するためには、リテラシーの向上が必要

（出所）総務省「健全な言論プラットフォームに向けてver2.0」より明治安田総研作成

本レポートに関するご取材やお問い合わせは以下までご連絡ください

明治安田総合研究所 エコノミスト 藤田 敬史

電話番号：03-6261-7947

e-mail：takafumi.fujita@myri.co.jp

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●発行元● 株式会社 明治安田総合研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-11 TEL03-6261-6411